幼児期に「育みたい資質･能力」を踏まえた「ねらい及び内容」についての考察

Consideration of “Aim and Contents” Based on “Qualities and Abilities that are Aimed to Develop” in Early Childhood

開　　仁　志（人間科学部こども学科教授）
Hitoshi HIRAKI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Professor)

〈要旨〉

2017年に告示された「幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（以下「3指針・要領」）では，「育みたい資質・能力」（以下「資質・能力」）の概念を新しく盛り込み，「資質・能力」を子どもの生活する姿から捉えたものが「ねらい」，「ねらい」を達成するために指導する事項を「内容」としている。しかし，2017年版「3指針・要領」で示されている「ねらい及び内容」は，2008年版「3指針・要領」における「心情・意欲・態度」から捉える文章表現とほとんど同様であるため，保育現場における指導計画作成等において，混乱が生じることが懸念される。そこで，本研究では，「資質･能力」を踏まえた「ねらい及び内容」について整理し考察した。その結果，2017年版「3指針・要領」で示されている「ねらい及び内容」の中には，既に資質・能力が含まれているが，意識的に記述していく必要性があることが明らかになった。

〈キーワード〉
育みたい資質・能力，ねらい及び内容，指導計画

1　目的

2017年に告示された「幼稚園教育要領（以下「教育要領」），保育所保育指針（以下「保育指針」），幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下「こども園要領」）」（3つ全て指す場合は以下「3指針・要領」）では，「育みたい資質・能力」（以下「資質・能力」）の概念を新しく盛り込んだ。そして，「資質・能力」を子どもの生活する姿から捉えたものが「ねらい」，「ねらい」を達成するために指導する事項を「内容」としている。[(1)(2)(3)]

「資質・能力」は，「小学校以降のような，いわゆる教科指導で育むのではなく，幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で，感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり，不思議さに気付いたり，できるようになったことなどを使いながら，試したり，いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要」とされている。[(4)]

しかし，2017年版「3指針・要領」で示されている「ねらい及び内容」は，2008年版「3指針･要領」における「心情・意欲・態度」から捉える文章表現とほとんど同様であるため[(5)(6)(7)]，保育現場における指導計画作成等において，混乱が生じることが懸念される。

この課題に関しては，開（2018）が，2017年版幼稚園教育要領における5領域のねらい及び内容と資質・能力の関係を，コンテンツ（中身）とプロセス（過程）として捉えることを提案し，領域「健康」の文章を対象に分析・考察をしている。[(8)]

しかし，開（2018）は，3つの「資質･能力」のうち，「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について乳幼児期は「基礎」であり，「学びに向かう力・人間性等」は「基礎」ではないという幼児期の資質・能力の特徴からくる「ねらい」の文章表現に及ぼす影響には言及していない。また，教育要領で扱う3歳以上児の領域「健康」におけるねらい及び内容について分析・考察するに留まり，他の領域や3歳未満児のねらい及び内容については分析していない。[(9)]

そこで，本研究では，乳児や1歳以上3歳未満児から3歳以上児までの全ての「領域」（乳児は「視点」）における「資質・能力」と「ねらい及び内容」の関係性について整理することを目指す。

そのことで，保育現場の指導計画作成の際，「資質・能力」を踏まえた「ねらい及び内容」を考え，記述できることが期待されると考える。

2　方法

2－1　分析対象

2017年告示の3指針・要領で，「育みたい資質・能力」の概念は共通である。また，「ねらい及び内容」についても施設特有の語（例えば，「幼児」，「子ども」，「園児」，「教師」，「保育士等」，「保育教諭等」等）以外は共通した文章になっている。[10] [11] [12]

教育要領では3歳以上児のみが対象となるため，0歳児から就学前児全てを対象とするには「保育指針」か「こども園要領」を対象とする必要がある。さらに，前述したように，施設特有の語以外は共通のため，本研究では，2017年版の「保育指針」（以下断りの無い場合は，全て2017年版）の「ねらい及び内容」の内，「資質・能力」を子どもの姿から捉えたものである「ねらい」[13]を分析・考察する。

2－2　分析方法

開（2018）の研究[14]を元に，保育指針第2章保育の内容「乳児保育に関わるねらい及び内容」，「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」，「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」に示されている「ねらい」の文章を分析し，どの「資質・能力」につながるか考察する。

3　結果及び考察

3－1　資質・能力とねらい及び内容の関係

開（2018）は，文部科学省の「幼児教育において育みたい資質･能力の整理」[15]（以下「資質･能力の整理」）を元に，「資質・能力」と「ねらい及び内容」の関係を整理している。[16]

「資質・能力の整理」で示されている図（図1）は，5領域の「ねらい及び内容」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から主なものを取り出し便宜的に分け3つの資質･能力を表す円の中に例示している。実際は遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。[17]

開（2018）は，円の例示を資質・能力の具体的なコンテンツ（中身），3つの資質・能力の説明部分を方向目標としてのプロセス（過程）と捉え，ねらいの文章を，「コンテンツ（中身）」を，～ようになっていく，～していく「プロセス（過程）」として表現することを提案した。[18]

本研究は，幼児教育部会のとりまとめでは直接扱っていなかった「乳児保育」，「1歳以上3歳未満児の保育」も対象とするため，保育指針を元にして，コンテンツ（中身）とプロセス（過程）に項目を追加した（下線部）。尚，乳

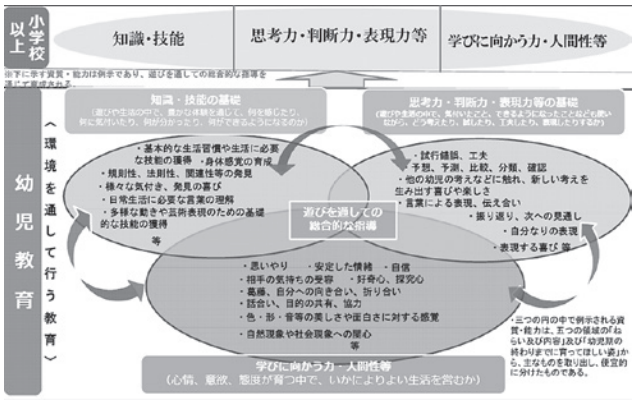

図1　幼児教育において育みたい資質・能力の整理[19]

児保育に関わるねらい及び内容の視点は相互に関連しながら領域に関わるとされている[20]。視点「健やかに伸び伸びと育つ」は領域「健康」に，視点「身近な人と気もちが通じ合う」は領域「言葉」「人間関係」に，視点「身近なものと関わり感性が育つ」は領域「表現」「環境」との連続性が特に意識されるため，視点と連続性がある領域に項目を追加した。結果は以下の通りである。

①資質・能力のコンテンツ（中身）としての5領域のねらい及び内容　※名詞「～を」

資質・能力のコンテンツ（中身）に着目して5領域の視点で分類すると下記のとおりになる。

※開（2018）の研究から追加（下線部）し，整理。

＜知識及び技能の基礎＞

（健康）「<u>生活のリズムの感覚</u>」「基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得」「身体感覚の育成」「<u>運動</u>」

（環境）「<u>感覚の働き</u>」「<u>物の性質や数量，文字などに対する感覚</u>」「規則性，法則性，関連性等の発見」「様々な気付き，発見の喜び」

（言葉）「日常生活に必要な言葉の理解」「<u>言葉に対する感覚</u>」

（表現）「多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得」

＜思考力・判断力・表現力等の基礎＞

（健康）「振り返り，次への見通し」

（環境）「<u>見る，聞く，触れる（触る），探索する</u>」「試行錯誤，工夫」「予想，予測，比較，分類，確認」「他の幼児の考えなどに触れ，新しい考えを生み出す喜びや楽しさ」

（言葉）「<u>体の動きや表情，発声等</u>」「言葉による表現，伝え合い」

（表現）「<u>表情や手足，体の動き等で表現</u>」「自分なりの表現」「<u>様々な表現</u>」「表現する喜び」

<学びに向かう力，人間性等>

（健康）「心地よさ」「安定した情緒」「明るく伸び伸びと生活（行動）」「自分でしてみようという気持ち」「充実感」

（人間関係）（言葉）「安心できる関係」「共に過ごす喜び」「関わる心地よさ」「一緒に活動する楽しさ」「愛情や信頼感」「思いやり」「自分の力で行動することの充実感」「自信」「子ども等への興味や関心」「相手の気持ちの受容」「葛藤，自分への向き合い，折り合い」「決まりの大切さ」「話合い，目的の共有，工夫，協力」「社会生活における望ましい習慣や態度」

（環境）「身近なもの（環境）に親しみ」「様々なものに興味や関心」「好奇心，探究心」「自然現象や社会現象への関心」

（表現）「様々な感覚」「感じたこと考えたこと」「イメージや感性」「色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚」

②資質・能力の方向目標としてのプロセス（過程）

※動詞「～のようになっていく，～していく」

資質・能力の方向目標としてのプロセス（過程）のキーワードを抽出すると下記のとおりになる。

※開（2018）の研究から追加（下線部）し，整理。

<知識及び技能の基礎>

感じる。気付く。分かる。できる。

<思考力・判断力・表現力等の基礎>

使う。考える。試す。工夫する。表現する。

<学びに向かう力，人間性等>

以下の3つが育つ中で，よりよい生活を営む。

（心情）感じる。味わう。楽しむ。もつ。親しむ。

（意欲）十分に～する。進んで～しようとする。自分から～関わる。
高まる。深める。
取り入れようとする。よく～する。

（態度）芽生える。育つ。慣れる。身に付ける。
豊かにする。通わせる。行動する。

3－2　乳児保育に関わる「ねらい」の分析

保育指針における「乳児保育に関わるねらい及び内容」のうち，「ねらい」の文章を意味のまとまりごとに項目分けし，さらに「コンテンツ（中身）」と「プロセス（過程）」に着目して分類すると以下のようになる。

※項目として該当する資質・能力を以下のように略して表記する。以下全て同様。

（知識及び技能の基礎）→（知技）

（思考力・判断力・表現力等の基礎）→（思判表）

（学びに向かう力，人間性等）→（学人）

視点「健やかに伸び伸びと育つ」

ねらい	コンテンツ（中身）「～を」	プロセス（過程）「～のようになっていく」「～していく」
①	・身体感覚が（知技） ・快適な環境に心地よさを（学人）	・育ち（学人） ・感じる（学人）
②	・伸び伸びと体を（学人） ・はう，歩くなどの運動を（知技）	・動かし（思判表） ・しようとする（学人）
③	・食事，睡眠等の生活のリズムの感覚が（知技）	・芽生える（学人）

視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

ねらい	コンテンツ（中身）「～を」	プロセス（過程）「～のようになっていく」「～していく」
①	・安心できる関係の下で，身近な人と共に過ごす喜びを（学人）	・感じる（学人）
②	・体の動きや表情，発声等により（思判表） ・保育士等と気持ちを（学人）	・通わせようとする（学人）
③	・身近な人と（学人） ・関わりを（学人） ・愛情や信頼感が（学人）	・親しみ（学人） ・深め（学人） ・芽生える（学人）

視点「身近なものと関わり感性が育つ」

ねらい	コンテンツ（中身）「～を」	プロセス（過程）「～のようになっていく」「～していく」
①	・身の回りのものに（学人） ・様々なものに（学人）	・親しみ（学人） ・興味や関心をもつ（学人）
②	・見る，触れる，探索するなど（思判表） ・身近な環境に（学人）	・自分から関わろうとする。（学人）
③	・身体の諸感覚による認識が（知技） ・表情や手足，体の動き等で（思判表）	・豊かになり（学人） ・表現する（思判表）

3−3　1歳以上3歳未満児の保育に関わる「ねらい」の分析

乳児保育と同様に，保育指針における「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」のうち，「ねらい」の文章を意味のまとまりごとに項目分けし，さらに「コンテンツ（中身）」と「プロセス（過程）」に着目して分類すると以下のようになる。

領域「健康」

ねらい	コンテンツ（中身）「〜を」	プロセス（過程）「〜のようになっていく」「〜していく」
①	・明るく伸び伸びと（学人） ・体を動かすことを（知技）	・生活し（学人） ・自分から 楽しむ。（学人）
②	・自分の体を（知技） ・様々な動きを（知技）	・十分に動かし（学人） ・しようとする。（学人）
③	・健康，安全な生活に必要な習慣に（知技） ・自分でしてみようとする気持ちが（学人）	・気付き（知技） ・育つ（学人）

領域「人間関係」

ねらい	コンテンツ（中身）「〜を」	プロセス（過程）「〜のようになっていく」「〜していく」
①	・保育所での生活を（知技） ・身近な人と関わる心地よさを（学人）	・楽しみ（学人） ・感じる（学人）
②	・周囲の子ども等への興味や関心が（学人） ・関わりを（学人）	・高まり（学人） ・もとうとする。（学人）
③	・保育所の生活の仕方に（知技） ・きまりの大切さに（知技）	・慣れ（学人） ・気付く（知技）

領域「環境」

ねらい	コンテンツ（中身）「〜を」	プロセス（過程）「〜のようになっていく」「〜していく」
①	・身近な環境に（学人） ・様々なものに（学人）	・親しみ（学人） ・触れ合う中で（思判表） ・興味や関心をもつ（学人）
②	・様々なものに（学人） ・発見を（知技）	・関わる中で（思判表） ・楽しんだり（学人） ・考えたりしようとする（思判表）（学人）
③	・見る，聞く，触るなどの経験を（思判表） ・感覚の働きを（知技）	・通して（思判表） ・豊かにする（学人）

領域「言葉」

ねらい	コンテンツ（中身）「〜を」	プロセス（過程）「〜のようになっていく」「〜していく」
①	・言葉遊びや言葉で表現する楽しさを（思判表）	・感じる（学人）
②	・人の言葉や話などを（知技） ・自分でも思ったことを（学人）	・聞き（思判表） ・伝えようとする（思判表）（学人）
③	・絵本や物語等に（知技） ・言葉のやり取りを（思判表） ・身近な人と気持ちを（学人）	・親しむとともに（学人） ・通じて（思判表） ・通わせる（学人）

領域「表現」

ねらい	コンテンツ（中身）「〜を」	プロセス（過程）「〜のようになっていく」「〜していく」
①	・身体の諸感覚の経験を（知技） ・様々な感覚を（学人）	・豊かにし（学人） ・味わう（学人）
②	・感じたことや考えたことなどを（学人） ・自分なりに（思判表）	・表現しようとする（思判表）（学人）
③	・生活や遊びの様々な体験を（思判表） ・イメージや感性が（学人）	・通して（思判表） ・豊かになる（学人）

3−4　3歳以上児の保育に関する「ねらい」の分析

同様に，保育指針における「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」のうち，「ねらい」の文章を意味のまとまりごとに項目分けし，さらに「コンテンツ（中身）」と「プロセス（過程）」に着目して分類すると以下のようになる。

領域「健康」

ねらい	コンテンツ（中身） 「～を」	プロセス（過程） 「～のようになっていく」 「～していく」
①	・明るく伸び伸びと（学人） ・充実感を（学人）	・行動し（学人） ・味わう（学人）
②	・自分の体を（知技） ・運動（知技）	・十分に動かし（学人） ・進んでしようとする（学人）
③	・健康，安全な生活に必要な習慣や態度を（知技） ・見通しを（思判表）	・身に付け（学人） ・もって行動する（学人）

領域「人間関係」

ねらい	コンテンツ（中身） 「～を」	プロセス（過程） 「～のようになっていく」 「～していく」
①	・保育所の生活を（知技） ・自分の力で行動することの充実感を（学人）	・楽しみ（学人） ・味わう（学人）
②	・身近な人と（学人） ・関わりを（学人） ・一緒に活動する楽しさを（学人） ・愛情や信頼感を（学人）	・親しみ（学人） ・深め（学人） ・工夫したり，協力したりして（思判表） ・味わい（学人） ・もつ（学人）
③	・社会生活における望ましい習慣や態度を（知技）（学人）	・身に付ける（学人）

領域「環境」

ねらい	コンテンツ（中身） 「～を」	プロセス（過程） 「～のようになっていく」 「～していく」
①	・身近な環境に（学人） ・自然と様々な事象に（学人） ・興味や関心を（学人）	・親しみ（学人） ・触れ合う中で（学人） ・もつ（学人）
②	・身近な環境に（学人） ・発見を（知技） ・それを生活に（学人）	・自分から関わり（学人） ・楽しんだり，考えたりし（思判表） ・取り入れようとする（学人）
③	・身近な事象を（学人） ・物の性質や数量，文字などに対する感覚を（知技）	・見たり，考えたり，扱ったりする中で（思判表） ・豊かにする（学人）

領域「言葉」

ねらい	コンテンツ（中身） 「～を」	プロセス（過程） 「～のようになっていく」 「～していく」
①	・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを（思判表）	・味わう（学人）
②	・人の言葉や話などを（知技） ・自分の経験したことや考えたことを（学人） ・伝え合う喜びを（学人）	・よく聞き（思判表） ・話し（思判表） ・味わう（学人）
③	・日常生活に必要な言葉が（知技） ・絵本や物語などに（知技） ・言葉に対する感覚を（知技） ・保育士等や友達と心を（学人）	・分かるようになるとともに（知技） ・親しみ（学人） ・豊かにし（学人） ・通わせる（学人）

領域「表現」

ねらい	コンテンツ（中身） 「～を」	プロセス（過程） 「～のようになっていく」 「～していく」
①	・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を（学人）	・もつ（学人）
②	・感じたことや考えたことを（学人）	・自分なりに表現して（思判表） ・楽しむ（学人）
③	・生活の中でイメージを（学人） ・様々な表現を（知技）（思判表）	・豊かにし（学人） ・楽しむ（学人）

4　まとめ

保育指針第2章保育の内容「乳児保育に関わるねらい及び内容」,「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」,「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」に示されている「ねらい」の文章を，意味のまとまりごとに項目分けし，さらに「コンテンツ（中身）」と「プロセス（過程）」に着目して分類し，どの「資質・能力」につながるか考察したところ，全体としては以下のような結果となった。

コンテンツ（中身）では全81項目を得て，内訳としては「知識及び技能の基礎」が27項目（33.3％），「思考力・判

断力・表現力等の基礎」が11項目（13.6％），「学びに向かう力，人間性等」が43項目（53.1％）該当した。

プロセス（過程）では全83項目を得て，「知識及び技能の基礎」が3項目（3.6％），「思考力・判断力・表現力等の基礎」が17項目（20.5％），「学びに向かう力，人間性等」が63項目（75.9％）該当した。

コンテンツ（中身）では「学びに向かう力，人間性等」が半数を占め，次に「知識及び技能の基礎」が多い。コンテンツ（中身）は，「何を」に該当するため，学びの内容に関係が深い「知識及び技能の基礎」の割合が多くなったと考える。

プロセス（過程）では「学びに向かう力，人間性等」が大多数を占め，次に「思考力・判断力・表現力等の基礎」が多い。プロセス（過程）は，「どのように」「～のようになっていく」という学びの方法に関係が深いことが関係すると考える。

また，プロセス（過程）で「ねらい」の文末表現だけに着目すると，「学びに向かう力，人間性等」（83項目中81項目（97.6％）が圧倒的に多かった。

これは，幼児期に，「社会情動的スキル」や「非認知的能力」を育むことが重要であることを踏まえ3指針・要領を改訂（定）したこと[21]が反映された結果と考える。さらに，「幼児理解に基づいた評価」を行うにあたり「幼児の理解を進め，幼児一人一人のよさや可能性などを把握し～中略～他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意する」[22]としていることの反映とも言えるだろう。

以上のことから，「ねらい」は，「資質・能力を，子どもの生活する姿から捉えたもの」[23]であるため，コンテンツ（中身）やプロセス（過程）の文章に3つの資質・能力を意識して取り入れつつ記述し，プロセス（過程）としての文末表現では，「分かる」「できる」「表現する」（※「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」に該当）等といった目に見える達成度を意識させるような記述ではなく，「味わう」「しようとする」「身に付ける」等といった「心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする姿」（※「学びに向かう力，人間性等」に該当）として，文章を記述していく必要があると言えよう。

あくまでも，幼児期に育みたい資質・能力として，「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」は「基礎」だからである。

2017年版3指針・要領の「ねらい」の文章は，一見2008年版3指針・要領と変わっていないように見えるが，既にコンテンツ（中身）とプロセス（過程）に3つの資質・能力を含んでいること，特にプロセス（過程）では「学びに向かう力，人間性等」を重視する必要性があることが明らかとなった。

今後は，実際の保育現場で，3指針・要領の改訂（定）の趣旨を捉え，具体的な指導計画の中で「資質・能力」を踏まえた「ねらい及び内容」がどのように記述されていくかを継続的に研究していきたいと考える。

引用・参考文献

(1) 文部科学省（2017）幼稚園教育要領.
(2) 厚生労働省（2017）保育所保育指針.
(3) 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）幼保連携型認定こども園教育・保育要領.
(4) 文部科学省（2016）幼児教育部会における審議の取りまとめ.
(5) 前掲(1).
(6) 前掲(2).
(7) 前掲(3).
(8) 開仁志（2018）保育内容5領域と育みたい資質・能力の関係についての考察．金沢星稜大学人間科学研究第11巻第2号．pp59-64.
(9) 同上.
(10) 前掲(1).
(11) 前掲(2).
(12) 前掲(3).
(13) 前掲(2).
(14) 前掲(8).
(15) 前掲(4).
(16) 前掲(8).
(17) 前掲(4).
(18) 前掲(8).
(19) 前掲(4).
(20) 厚生労働省（2016）保育所保育指針の改定に関する議論の取りまとめ.
(21) 前掲(4).
(22) 前掲(1).
(23) 前掲(2).